柏豊

尾瀬を追って50年～春の尾瀬と水芭蕉

布施 正直 さん（高校8回）

尾瀬・利尻礼文・南北アルプスなどの野山で、永きにわたり花と出会ってきた布施さんは、これまでのライブラリーをもとに、今年初めに写真展を主宰。尾瀬を訪ねて50年・延べ滞在1500日を越える布施さんの カメラ・アイ が、“尾瀬へいらっしゃい”と語りかけてくるようです…（記事５ページに）

6月7日(日)開催！ 同窓会・年に一度の 親睦会

柏豊会恒例「親睦会」は、毎年6月・最初の日曜日に開催します。今年卒業の18歳から高女卒業の大先輩まで、「第十」「豊島」に縁のある方、皆さん歓迎です。**懐かしい思い出話**と、**美味しい料理**と**お土産**、それにほんのちょっぴりの***“ドキドキ”***をお届けします。ちょっとしたクラス会、部活のOBOG会・あるいは近く開催する同期会の準備会などにもどうぞ。
たくさんの参加をお待ちしています。

▼日時　6月7日(日)PM1時から
▼会場　豊島高校にて
▼会費 2,000円
※但し卒業4年以内の方は**無料**
（2006年3月以降卒業の方）
▼予約不要　※同期会開催など、多人数参加が見込まれる時はご連絡ください(テーブル対応可)

ご注意ください

「人事新報社」及び「同窓名鑑」は、柏豊会・豊島高校と関係ありません！

■「同窓名鑑」発行に伴い個人情報提供を求める案内がありましたが、柏豊会・豊島高校とは関係ありません。また、こうした名鑑刊行の許諾はしておりません。
■柏豊会で編集発行した公式「同窓会名簿」は平成13年版が最新です。今後発行の予定はありません。

柏豊会は、会員の活動への賛助協賛、電話勧誘・有料広告募集を行いません！

■同窓会を騙って商品販売や広告募集が行われているとの情報も寄せられていますが、柏豊会は、これらに関与しておりませんのでどうぞご注意ください。

不審な勧誘等の相談・お問合せはこちらへ

問合せ：柏豊会担当・鈴木　03-3972-4037（TEL・FAX）
柏豊会連絡用メールアドレス　hakuhokai@mbg.nifty.com

存在感のある豊島高校に向けて

豊島高校 校長
島田 悦郎

昨年の本校の入試倍率は、都立高校でも非常に高い倍率でした。こうした高い倍率の翌年は敬遠され、一般的には倍率が下がる傾向にあります。そこで、今年の入試対応は、これまで以上に学校経営上の大きな課題として全職員で組織的に取組んで参りました。具体的には、前年度の取組みを更に発展させ様々な活動を展開してきました。塾対象の説明会はもちろん、中学校訪問や外部の説明会等への積極的な参加、部活動体験の増加や学校説明会時に吹奏楽部による演奏の公開や体験授業等の充実など広く本校の教育活動の様子を紹介しました。こうした取組みから、1月までの学校見学者の総数が前年より200名近く多い3800名を越えました。もちろんこうした広報・募集活動だけでなく様々な要因が考えられますが、結果として、平成21年度の入試倍率は、男女平均にして、推薦入試で5・41倍（昨年5・09）、一般入試では1・87倍（同1・96）と概ね昨年と同様に高い倍率を確保することができました。たいへん嬉しく思うと同時に、こうした高い倍率で入学した生徒の期待に応える教育の実践が、益々存在感を高める豊島高校にとって重要となってきます。

具体的には、規律ある授業の確保、チャイム始業の徹底など毎日の授業を大切にした学習活動の実践を第一に、生活モラルやルールをわきまえた規律ある生活の中で、部活動に大いに励み、特色ある学校行事にも積極的に取組みながら、明るく生き生きと高校生活を送り、更には生徒一人ひとりが自己の進路を実現し、確固たる中堅進学校としての実績を残すことではないかと思います。考えてみれば、これまで受け継がれてきた伝統を大切に、「誠実に、何事にもまじめに取組む豊島生を育てること」そのものです。入試を機会に改めて本校の社会的役割を実感するところです。

柏豊会の皆様には、2年連続で東日本大会に東京都代表で出場し銀賞を獲得した吹奏楽部や都大会16位の成績を残した硬式テニス部などの部活動並びに本校の教育活動に多大なご支援をいただき感謝を申し上げます。今後も力強いご支援をよろしくお願い申し上げます。

ひたすら前に そして 至誠を胸に

柏豊会 会長
鈴木（豊田）優子

同窓生の皆様、ますますお元気でご活躍の事とお慶び申し上げます。

平成21年3月7日に、めでたく高校61回生233名が卒業されました。卒業式は豊島生として誇る事の出来る、恩師への感謝と将来への輝かしい希望を胸一杯ふくらませての温かな中に無事行われました。

今年の母校の入試倍率もたいへん高く、又進路に関しても毎年着実に国公立はじめ有名校への進学率を高め、先生方の熱心な生徒へのご指導の成果と嬉しく思います。卒業され新たに柏豊会の一員となった皆様には、新しい場所で大変な中とは思いますが、どうか前向きに、会への参加とご協力をお願いいたします。今年の「親睦会」も、昨年に引き続き皆様に参加して喜んでいただけますよう、楽しい企画をしていますので、ぜひ同期会など含め懐かしい再会の場として活用してください。

昨年来、米国のサブプライムローンから信用危機が発生したあと坂道を転がる様な不景気の状況となり日本も巻き込まれ、世界的にも100年に一度の大不況といわれる程で日本の大企業も厳しい状況となっています。政府も様々な形で不況対策をしていますが、一日も早い回復を心より期待しています。

昨年は「チェンジ」の合言葉で初の黒人米大統領にオバマ氏が多くの人々の期待を一身に背負って登場、又北京でのオリンピックでは日本は嬉しい事に金9銀6銅10と合計25個のメダル獲得、ノーベル賞は日本人4人が受賞、そして国内では福田総理から麻生総理への首相指名がありました。一方、中国製餃子での中毒事件、世界的には四川省の大地震で6万人の死者が出たりと多くの事が次々に起こりましたが、今年、不況下ではありますが何とか良い方向の年でありたいと願うばかりです。

「柏豊」54号も、高女の方から若い世代まで多くの参加を頂きました。益々多方面に活躍されている方々の様子を賑やかに掲載し発展してゆきたいと思いますので、どうぞ宜しくお願いします。

ある方が、「教育とは世代から世代へ受け継がれ、伝えられていくものです。青年の役割はとても重要です」と語っていますが、母校の「至誠」を受け継ぐという事にも通じると思います。後継というのは他の「誰か」ではなく「自分自身」と考え、誠実と誇りを持って今まで受けた家庭、学校、社会教育に感謝し豊島生としての生き方をしっかり次の世代へ伝えるために自分の力を精一杯発揮して行って頂きたいと思います。今年も文化祭、公開講座、講演会などに合わせて、いろいろと活躍されている卒業生の方の講演を聞く機会を設けて、在校生の皆さんの糧になれたらと思います。

同窓会としても昨年同様、母校への部活動援助、文化財保護への支援など、母校益々の発展の為に共に力を合わせて進んで行きたいと思います。また今から2年後（平成23年）には同窓会創立70周年を迎えます。祝賀会の計画も進めておりますので、今後とも多大なる皆様のご協力を心からお願い申し上げます。

豊島会・講演会開催

母校文化祭にて

昨年9月20日、柏豊会と財団法人豊島会共催で『ハートtoハート・あなたも聴こえる心臓の話』特別講演会を行いました。日大病院心臓外科の瀬在明先生を講師に、心臓移植の話題から「いのち」について講演し、在校生・同窓生や地域の方々など、幅広い層の来場がありました。今回は豊島高校の協力により文化祭に参加する形で行いましたが、今後も母校・同窓生・地域の皆様に広く還元できる事業を展開します。ご期待ください。

図書館ものがたり

正門をくぐると右側に見えてくるコンクリート2階建の建物、「図書館」は、学校創立20周年を記念し、昭和30年に竣工された現在の豊島高校で一番古い建物です。今回は、実に築50年を超えるこの「図書館」、そして「豊島文庫」にスポットを当ててみることにしました。

築50年超の校内最古物件 ～図書館

■PTAが建設を提起

図書館は、学校創立20周年記念として「後世に残せるものを」とPTAが実行委員会などで検討し、最も良い教育環境を作り生徒の資質向上を計る効果もあるとして建設を決めました。

昭和29年6月、図書館建設特別委員会により、本格的に建設へ歩み始めました。総工費は当時の金額で約1000万円。それをまかなうために、PTAを中心に寄付金を募りました。同窓会からも寄付が出されました(注・現在は、都立学校の施設は都の予算より充てられることとなっています)

■全額寄付で建てられた

当時の資料を詳しく見ると、建設に必要な費用は960万円。対して資金計画は、PTA寄付が600万円、同窓会寄付が200万円、PTA積立金が4年間で160万円(年40万円)合計で960万円です。PTAではこれに向け、約4回にわたる募金活動も行われたそうです。ということは、図書館はすべてが寄付で建設されたということです。

■野間校長・卒業生家族も協力

また、初代校長の野間忠雄先生を中心に、卒業生保護者の方々の協力のもと「図書館建設協賛会」を立上げ、これも図書館建設に大きな一助となりました。

PTA、同窓会、そして協賛会の方々の尽力により、昭和30年3月図書館の裏側にある非常階段に並んで撮られたものですが、この非常階段を含め、図書館の外観は今も大きく変わっていません。

撮影時期は昭和37(1962)年1月
当時の3年2組のクラスメイトとの一コマ

■写真をご紹介

江澤敏一さん(高校14回)から寄せられた写真です。図書館の裏側にある非常階段に並んで撮られたものですが、この非常階段を含め、図書館の外観は今も大きく変わっていません。

あっても、図書館は今も同じ佇まいで、温かく豊島生を見守っているのです。

(参考：生徒会誌「田園」3号昭和31年11月発行 による)

豊島区の歴史をすべてここに ～豊島文庫

■図書館建設と同時期に蒐集

豊島文庫は、図書館と同じく創立20周年の記念事業の一つとして設立されました。その構想が練られたのは、昭和25年まで遡ります。当時、豊島区にはまとまった郷土館のようなものがなく、ここに来れば豊島区の歴史がすべてわかるというような文庫をつくるというのが、そもそもの発端でした。このような遠大な計画に基づいて、PTAの中に「豊島文庫特別委員会」が組織され、毎年10万円の調査研究費を計上することによって、5カ年計画の事業がスタートしたのでした。

社会科を中心とした先生方が、生徒と力を合わせて、夏も冬も武蔵野の探索に明け暮れ、資料の蒐集、資料の整理などに7年の歳月が費やされ、ついに幕末から明治・大正・昭和にかけての郷土、豊島区や江戸・東京に関わる本が約350冊、地図も30点ほど集められました。

■理想高きがカタチに

また、そうして集められた豊島文庫に花を添え、蒐集研究の集大成といえるのが、昭和31年に発刊された「豊島区史年表」です。もともとは、『「豊島区史年表」の資料を入れるため豊島文庫を作ろうという計画がだんだん発展して図書館になったわけです。』(土屋順三第2代校長談・30周年記念誌より)と言うように、この年表をきっかけにして、豊島文庫ができ、そして図書館まで建設されたわけですが、一都立高校が地域の歴史をまとめ上げ、形に遺したということは、当時の豊島高校を取り囲む方々の理想の高さを物語っている証拠と言えるでしょう。

理想高き豊島の集大成と言える「豊島区史年表」草色の表紙のこの年表を手にした方も多いのでは？

■豊島文庫のいま

現在、登録している蔵書は422冊を数え、図書館1階の資料室のガラスケースに大切に閉架保存されています。(開架式の一般図書と閲覧室は2階)

登録番号1番は「史籍集覧校本鎌倉大草紙」、1883(明治16)年の出版です。粗い紙質もさることながら、綴じ方も現代の本と全く異なり、それだけでもかなりの価値がありそうです。他にも、表紙のレイアウトや、文字が右から左へ書いてあるなど、各々の本それぞれ味わい深いものが多く、これだけの書物が一高校の図書館に収められていることに、豊島高校の歴史の深さを改めて知るのでした。

豊島文庫の数ある中から一冊をご紹介しましょう。

「江戸の夕栄」
鹿島萬兵衛 著
1922(大正11)年
紅葉堂書房刊

■「火事と喧嘩は江戸の華」

嘉永2年(1849年)生まれの筆者が、古き時代のことを知る人がなくなるのを惜しみ、できる限り力を振り絞って、幼き頃より見聞したものを書き残そうとしたもの。

お馴染みの南北両町奉行について書かれた「江都の府政」から始まり、江戸の華ともいわれた「出火」や「喧嘩」についても触れられ、幕末から明治初頭にかけての町人の日常を、生き生きと綴った貴重な記録です。

なお、「江戸の夕栄」は2005年に中央公論新社から再出版されており、内容は気軽にお読みいただくことができます。

※今後も、豊島文庫の中から順次ご紹介していく予定です。

茫々六十三年・・・・

石川逸子（高校3回）

180度の価値転換

第十高女入学の春（1945年）は、アジア・太平洋戦争の末期。3月10日には10万人以上の死者が出た東京大空襲があり、勉強などできる状態ではなく、無試験で入学。ますます空襲は熾烈となり、学校へは1日も行かないまま、病弱の母と上諏訪へ疎開しました。

学校へ復帰できたのは、1945年末。空襲がなくなって死の恐怖から遠ざかり、停電は多いものの電灯に黒い布をかけずにすむのは、嬉しいことでした。

そのうち、学制が変わり、気がつけば、またまた無試験のまま豊島高校生となっていました。従って受験勉強を少々したのは、大学へ行くときだけ。恐らくそれが幸いし、同期生からは、多彩な方々（吉原幸子さん、幸田弘子さんほか）がきらびやかに輩出、列挙したらそれだけで紙面が埋まってしまうでしょう。

もちろん、輩出した最大の理由は、十代のはじめで、180度価値の転換がおきたこと。

生まれたときにはもう、中国侵略戦争を日本がはじめていた私たちの世代。根っからの「皇国少女」にされていたのが、敗戦を境にガラッと価値が転換し、「鬼畜」と教えられていた米英が、まばゆい「民主主義」の旗手として立ち現れ、授業では、戦前の教科書の問題箇所を塗りつぶしていく作業をしたものです。やがて、理不尽な死と日々対面させられていた学徒動員から解放された若者たちが、教師として出現、新たな文化の種を撒いて下さいました。

2008年10月、前橋文学館での「那珂太郎―〈無〉の詩学―」特別企画展に行って参りましたが、渡された年譜に、「1946年・24歳・第十高女国語科教諭となる」とあるのを、感慨深く眺めました。那珂太郎即ち福田正次郎先生。萩原朔太郎についてほとばしるような情熱で高度な授業をしておられました。

▲近影。東京大空襲戦災資料センター前で

ヒロシマで

敗戦後の自由の息吹を知ることなく、非業に亡くなっていった数多の同世代の少年少女たちに思いをいたすようになったのは、敗戦から30年後。当時、勤めていた中学校に長崎で被爆した教師がおられ、彼の発案で広島に修学旅行に行ってからでした。平和公園内外にある小さな慰霊碑のほとりで、遺族のお母さんたちが、「わが子が帰ってきたような気がする」と待っていて下さいました。

ようやく探し当てたわが娘は、顔はふくれ、胸の名札を見ても別人としか思えず、抱き上げ、救護所に向かう途中で息絶えたこと。数日後に怪我一つなく帰ってきた息子が、しばらくすると血を吐き、苦しみ悶えて死んでいった、などなど。

私と同世代の少年少女たちが、家屋疎開片付け作業に動員され、多数、亡くなっていたのです。30年だれにも言わずに悲しみを胸に秘め、遺族の方たちが過ごしてこられたことも、初めて知りました。

「どうか、このことを少しでも多くの人に伝えてください」と口々に言われ、帰ってから自分ができることをほそぼそと始め、詩集『ヒロシマ連祷』発刊、小誌「ヒロシマ・ナガサキを考える」を、一人で編集・発刊しました。（現在93号）

千鳥ヶ淵墓苑で

小誌を発刊するなかで、さまざま見えてくるものがありました。戦争によって非業に亡くなった方々を追悼する碑を各地に訪ね、紙面に連載していきましたが、九段下の千鳥ヶ淵墓苑では、大日本帝国が行った侵略戦争に一片の赤紙で徴兵され、敢え無くなった兵士たちの「戦争で死にたくなどなかった。もっともっと生きていたかった！」という声を聴いた気がしました。

日本軍によって平和な暮らしを破壊され、命まで奪われた2千万人ともいわれるアジア・太平洋地域の犠牲者について追悼と謝罪の碑が、墓苑にないことにも驚きました。

兵士たちの遺骨が収集された厖大な地域自体、侵略戦争であることを如実に物語っています。「イツマデ私タチノ死ヲ放ッテオクノカ」という声が、海を渡って聞こえてくるようでした。

もし、地底の、海底の、非業の死者たちが、悲惨な姿のまま地上にあらわれ、「コノ姿ヲ見テクレ」と、ぞろぞろ行進するなら、格好良く戦争をイメージする人々はいなくなるでしょう。でも、死者たちは物言いません。

せめて、その気持ちを代わりに伝えたく、詩集『千鳥ヶ淵へ行きましたか』を発刊しました。反戦の詩にはなぜか抵抗があって読まずにきた、という若い女性から、「お米をとぎながらも、涙が止まりませんでした。一家に一つ、置いておくべき詩集だと思い、隣の奥さんにもすすめ、読んでもらいました。」と手紙を頂いたことが忘れられません。

劇団民芸の演出家、渾大防一枝さんの目に留まり、「加害・被害両面が書いてある詩集全篇を是非上演したい」と、はじめは有志で、途中から民芸公演として、10年間（1995年より）ドラマティック・リーディングをして頂きました。

63年経って

振り返れば、敗戦から63年の歳月がながれています。

空襲の怖さ、空腹の辛さなど知らない時代が続いていることは、有難いこと。でも、戦争の実相に無知なため、たとえば米軍の空襲で、頭を、はらわたを、引き裂かれ、あるいは劣化ウランにより白血病で死んでいくイラクの子どもたちの姿を、想像することができないなら、いつか通った怖い道へ、また引き返していく気がします。

なぜ長く朝鮮・中国の文化の恵を受けながら、アジアと共生する道を歩まず、アジア侵略へと、明治以後歩んできたのか。検証してみたくなり、先ごろ、ドキュメンタリー・ノベル『オサヒト覚え書き―亡霊が語る明治維新の影』を上梓。同期生で詩人・ロシア文学者の小出真理さんが、「共感をこめて読んだ」と、「千年紀文学」に長文の書評をして下さいました。

防衛省のトップであった幕僚長が、「侵略は濡れ衣」と堂々と語る姿に慄然とし、「軍国少女」のまま爆死し、憲法第9条を知らずに死んでいった同世代の少女たちの無念を伝えつづけねば、と改めて思うこのごろです。

「通信協力費」ご協力お願いします！

日頃は、柏豊会の事業にご理解・ご協力をいただき誠にありがとうございます。柏豊会では、同窓会運営維持・会報の一層の充実などに向け「通信協力費」を受付し、有効活用しています。昨年度もたくさんのご協力いただきました。お礼申し上げますと共に、引続きのご協力をお願いいたします。【幹事一同】

▼送金は同封振替用紙の利用をお勧めします。ゆうちょ銀行またはお近くの郵便局からどうぞ。

▼振替用紙の通信欄に、住所・氏名・入金額・卒業回・クラスの記入を。会報の宛名ラベル右下にある記号だけでも結構です。

▼振替用紙は、前年度入金有無にかかわらず、自動的に同封されます（一部の方除く）。先の分まで送金済の方は、お手数ですが振込用紙は破棄してください。

▼同期会などでまとめてのご入金も歓迎します。

※他銀行から送金する場合、同封振替用紙は使用できません。また店番・口座番号の記載方法が異なるのでご注意ください。

送金口座（ゆうちょ銀行振替口座番号）
00150−7−403846
加入者名（受取人）
柏豊会（豊島高校同窓会）

＊通信協力費として一口1,000円以上(千円単位)
＊通信協力費は同窓生の任意で振込頂くもので、年会費や親睦会参加費等とは異なります。
＊振替金の受領書をもって領収書に代えます。
＊振替用紙上の個人情報は、柏豊会で厳正に管理します。なお用紙の保管は5年間とし、以後は裁断し破棄いたしますのでご了承ください。

(表紙の人) 自然の向こうに・・・

布施正直さん（高校8回）

「勉強はしなかったけど、好きなことはやり続けてきた」という布施さん。小さな頃から花を好み、少年時代住んでいた目白の自宅近くで種を蒔き、その芽が出て枝葉を広げ花を咲かせた時の喜びが、植物と信頼関係を築く礎になったのだとか。

豊島高校では、山岳部・生物部・そして写真部に出入り。カメラを持ち、自然の写真を撮り始めてから50年を超えます。毎年小さな草花にスポットを当て、四季の花を素材にしたカレンダーを制作。もとは尾瀬にある「長蔵小屋」カレンダーとして、尾瀬の花を中心に制作していたのが始まりだそうで、こちらは作り始めて35年になります。

今年初めに催した写真展の主役は、やはり小さな草花たち。一つ一つはとても小さなものですが、自然の中で「僕はここにいるよ」そう自己主張している姿が、ファインダーを通じて、50点ほど集められていました。

今は茨城の田舎で畑を耕しながら、息子さん一家と共に自然の中で暮らすそうですが、田舎暮らしの理由は…ご自身曰く「野菜だけは都会に出てきてくれないからね」。〝青くさい味〟と称した自家製の野菜、そして今の暮らしに、これまで自然とたくさん関わり続けてきた布施さんの集大成があるのかもしれません。

【主な著作】写真集「花紀行」。著書に写真集「お花畑」保育社。文化出版局・花紀行シリーズ「尾瀬の花」「礼文・利尻の花」「北アルプスの花」「南アルプスの花」「山菜の本」。講談社カルチャーブック「尾瀬花の旅」

元気です・豊島の部活動

～部活特別推薦も実施

20年春入学生から、豊島高校でも「文化・スポーツ等特別推薦選考」が行われています。

推薦基準は種目（部）ごとに異なります。硬式テニス（21年度）の例では「都大会以上の大会に出場」「部活動で3年間継続し、学業と両立すること」と厳しい分、全都から顕著な実績ある中学生が応募し、部活動を、そして豊島高校全体を盛り上げています。21年春の入試では、硬式テニス・サッカー・バスケット・バレーボール・吹奏楽で特別推薦が行われ、各部とも3年後には都大会上位入賞を目指しています。

同窓会でも部活動への支援を引続き行っています。後輩たちの活躍に、ぜひご注目ください！

部活動リポート

サッカー部	インターハイ春季都大会出場1回戦惜敗　前期Eリーグ出場 夏季大会予選決勝惜敗　夏季合宿(菅平高原)
女子バスケット部	春季大会出場　総合体育大会都ベスト16　夏季大会出場 都立校大会1リーグ3位　新人戦　夏季合宿
男子バスケット部	春季合宿　春季大会出場　インターハイ予選出場 夏季合宿　新人戦出場
硬式テニス部女子	都高校選手権団体2回戦　都立対抗テニス大会団体2回戦 夏季合宿　都高校新人選手権個人シングルス予選5回戦／ 個人ダブルス予選5回戦
硬式テニス部男子	都高校選手権団体ベスト16／同個人シングルス本戦2回戦／ 同個人ダブルス本選1回戦 都立対抗テニス大会団体3位　夏季合宿　都高校新人選手権 個人シングルス4回戦／同個人ダブルス5回戦
ソフトテニス部女子	関東大会団体予選出場／同個人予選出場 東京総合体育大会出場　東京インドア予選出場
ソフトテニス部男子	団体選手選考会出場　新人大会出場
ソフトボール部	春季都大会ベスト32　城北大会予選2位・本選出場 公立大会(新人戦)予選2位・本選ベスト16 新人戦(私立込)出場　夏季合宿
軟式野球部	夏季大会出場 秋季大会出場　夏季合宿
バドミントン部	春季関東大会予選出場　インターハイ都予選Aブロックベスト8 新人戦団体Aブロック優勝・都大会出場　Aブロック選手権ベスト8 新人戦個人単ブロック2位・国公立決勝大会出場　夏季合宿
女子バレーボール部	春季リーグ戦出場　インターハイ予選出場　夏季大会出場 新人リーグ戦出場　新人選手権出場　夏季合宿
男子バレーボール部	関東大会都予選出場　全国高校総体都予選出場・2日目進出 西部地区サマーカップ出場　夏季都立高校大会出場 都秋季大会出場　都新人大会出場・2日目進出 西部地区ウインターカップ出場　冬季都立高校大会出場 西部地区スプリングカップ出場　夏季合宿
陸上競技部	支部学年別大会3年男子110mハードル3位／同3年男子800m 3位／同2年女子砲丸投げ3位／同1年男子走幅跳8位 都高校選抜1年生大会走幅跳出場　支部夏季競技会 女子砲丸投げ3位　支部新人予選会　女子砲丸投げ3位 豊島区民陸上競技大会　男子1500m2位／女子砲丸投げ1位／ 男子砲丸投げ3位／女子4X100mリレー3位／ 女子100m決勝進出　夏季合宿
剣道部	都高校春季大会出場　都高校秋季大会ベスト32
吹奏楽部	夏季合宿　都吹奏楽コンクール金賞・最優秀賞・ 東日本学校吹奏楽大会銀賞
美術部	学展13名出品・1名賞候補
科学部	夏季合宿　文化祭展示
料理研究部	文化祭出店(タピオカジュース・クレープ・抹茶ケーキ・チョコケーキ)お好み焼き作り　ブラウニー作り　など
茶道部	都立茶道連盟主催茶会参加　文化祭で茶会開催
演劇部	4月新入生歓迎公演　6月新人公演　7月合宿 9月豊島祭(舞台祭・文化祭)公演 10月演劇連盟中央地区発表会　11月部内公演　2月如月公演

豊島高校PTA会報より(記事使用許諾済) ©豊島高校PTA

平成21年度・教職員の異動

(順不同・敬称略)

【着任】▼鶴田秀樹(副校長)小笠原高から▼細山彰(数学)青山高から▼鍋田修身(生物)稔ヶ丘高から▼荻原清(物理)大山高から▼植場光平(英語)農芸高から▼沖奈保子(国語)新任▼光畑敬子(国語)市谷商業高から▼稲垣修(国語)忍岡高から▼徳田みゆき(養護)高島高から▼武富かおり(理科助手)九段高から

【転任】▼遠藤文雄(副校長)光が丘高へ▼森茂(数学)葛西南高へ▼早山明彦(生物)三鷹高へ▼高橋裕子(養護)青山高へ▼橋本奈央子(理科助手)田柄高へ

【退職】▼吉田ひとみ(国語)▼古畑孝利(物理)▼谷口雅晴(英語)

マイ・ターニングポイント

武田　洋さん（高校14回）

豊島高校では野球部のキャプテンだった武田さん。当時のメンバーとは今も顔を合わすことが多いそうで、この日もそんな近況話から始まりました。同期の豊島さんと鈴木さんとのお話の中、少しずつ高校時代のお話からお聞きすることにしました。

自称「勉強はしなかった」

――高校時代の思い出で印象深いことは何でしょうか。

武田　野球部では都でベスト4に進みました。野球のおかげなのか、上級生の女子生徒にはよく声をかけてもらったのを覚えています。もと女子校ということならではなのかもしれません。クラスのみんなはよく勉強が出来たので、一橋はじめ有名校に進んだ人も多いです。一浪して東大に進んだ人もいます。

僕はというと勉強は…いやあ、しなかったですねぇ。3年生の冬、受験直前にもかかわらずスキーツアーに行きました（3年生でツアーに行った人はごく少数）。特に勉強しませんでしたが数学は得意でした。そして「大きなものを作りたい」という気持ちがあり、工学部の土木学科へ進むことにしました。

――豊島を卒業して、法政大学に進んだわけですね。

武田　文字通り「大きな学生」でした。但し「大きなものをつくる」土木工学の勉強よりは、むしろ「大きな声を張り上げる」応援団の活動が大きな比重を占めました。主にいたのは工学部よりも六大学野球のある神宮球場や応援団の部室がある文科系のキャンパスです。大学でも勉強らしい勉強はしていません。応援団の活動に明け暮れ、単位は他の人より1年遅れで取っていたぐらいです。

「電子計算機」に目覚める

――今は大学院生の論文指導、そして研究者という職にいらっしゃるわけですが、武田さんの人生が、大きく変わったきっかけというのは何でしょう。

武田　大学4年の夏、卒業論文を書く事になるわけですが、応援団には夏合宿があるので、実験などで時間を支障しないようなテーマを探したのです。構造解析の理論をテーマに設定したところ、関連テーマとして電子計算機（コンピュータ）の勉強をする事となったわけです。今でこそ誰でも使いますが、当時（昭和41年）電子計算機はうんと珍しく、「理論をソフトウェアとして組立てていく」というところに興味を持ち、詳しく調べ込んで行きました。

――コンピュータと土木はどのような関連があるのでしょう。

武田　力学的な理論を整理して、それを広く応用できるソフトウェアに仕立てていくという事を目指して試みが続けられていました。例えば「車がぶつかった時のダメージの受け方」を調べるのに、それまでは実際に車をぶつけて壊してデータを取っていた。それが、このソフトウェアからデータを取れるようになると、実際に車を壊さなくても、コンピュータ上でシミュレート（模擬実験）することで影響を見ることができるようになり、よりきめ細かな状況解析ができるようになるのです。

――すると卒業後にはこのコンピュータを生かしたお仕事をされるのでしょうか。

武田　実は卒業後すぐ現場に出ようとも考えたのですが、もっと理論を深めておきたいと↖

▲武田さんの研究室でお聞きしました

先生&同窓生　短信コーナー

お世話になったあの先生は、そして隣に座っていたあの級友は今どうしているだろう…先生や同窓生の「今」を、自薦他薦で少しずつご紹介。

（情報提供は柏豊会まで）

※掲載にあたり、柏豊会でご本人の了承を得ております。

▼寺木傅先生

このたび無事白寿（99歳）を迎えられました。いつも同期会を楽しみにしてお元気の由。

▼雲居佐和子先生

昨年8月で満95歳に。同窓生への手紙には「まだ呆けないで弾いています。再会を楽しみに。モットーは愚痴をこぼさない。日々感謝すること」との由。

▼田中（大川）房子さん（高女5回）

声楽家として活躍、また芸大で教鞭をとり多くの声楽家を育てました。音楽活動の集大成として「心のささえ　声のまことを」（丸善）を昨年出版しました。

▼関（山口）ヨシミさん（高校5回）

綿つむぎをライフワークとし、新聞・テレビにも紹介。その様子を娘さん（漫画家・己珠恵さん）のイラストと共に、絵本「こっちゃんのいとぐるま」として自主出版で発表しました。

▼募集　会員短信、同期会開催告知・リポートなど原稿・情報提供を歓迎します。原稿作成にあたっては幹事もサポートします。詳しくはお気軽に柏豊会へお問合せください。

（連絡先は11ページ）

卒業生進路状況

（平成21年3月末現在　豊島高校進路指導部調べ）

●進路別人数（本年度卒業生233名）

		男	女	計	
大学	指定校推薦	17	15	32	144名（61.8%）
	公募推薦	10	13	23	
	一般入試	54	35	89	
短期大学	指定校推薦	0	5	5	18名（7.7%）
	公募推薦	0	8	8	
	一般入試	1	4	5	
専門学校	指定校推薦	0	0	0	23名（9.9%）
	公募推薦	4	10	14	
	一般入試	5	4	9	
就職		1	2	3	3名（1.3%）
その他	浪人	24	17	41	45名（19.3%）
	留学・他	3	1	4	

進路決定率:81.1%（男77.3%/女84.2%）

●最近5年の進路状況推移

卒業年月（平成）	卒業生数	大学	短大	専門	就職	その他
17年3月	228	114	20	33	3	58
18年3月	235	113	16	48	3	57
19年3月	234	158	10	28	3	35
20年3月	235	166	14	29	0	26
21年3月	233	144	18	23	3	45

（注・人数は卒業地点の数字です。既卒者は含みません）

今年の〝一枚〟

「花つ月」

信夫（村木）陽子さん（高女8回）

卒業後、芸術方面でご活躍の同窓生はたくさんおり、この会報でもたびたびご紹介しておりますが、今年は〝信夫梨葉〟のお名前で水墨画においてご活躍されている信夫陽子さん（高女8回）の絵をご紹介します。

――この絵のコンセプトは？

すべてのものが芽ぶきはじめる春、早春は私の一番好きな季節です。梅は春にさきがけ、寒さに耐えて花を開きはじめます。辛抱づよくりりしい姿です。

そして梅から桜に変わり若者達が巣立っていく季節になります。

ピカピカの小学一年生になる、中学生になる、大学生になる、そして社会人にと希望に満ちた春。中でもこの年は四月初舞台の若い女性がいました。三年の厳しい修行を終えての晴れ舞台です。明るい未来に大きく羽ばたいてほしいと羽を拡げた鶴を描きました。

バックの梅に金、銀を使ってあでやかに華やかにと思いをこめました。題名の《花つ月》は陰暦三月の異称、耳なれない言葉ですが風雅な言葉が気に入ってつけました。

（美術年鑑社〝画集・日本の四季〟より）

花つ月 2002年 紙本水墨画淡彩（二曲屏風）155×150cm
第35回日本水墨画展出品

1931年東京生まれ。青山学院女子専門学校卒業。岩上青稜に師事。79年日本水墨画展奨励賞、84年同展東京都知事賞、87年同展日本水墨画協会賞、89年同展文部大臣奨励賞、97年同展日本水墨画大賞。2003年・04年ロサンゼルスJAPAN EXPO、07年上海個展（海外展出品多数）他。現在、日本水墨画協会理事。

いざ大学へ

――大学に戻られたのはいつ頃でしょうか。

武田　会社勤めの間も、講師として大学に出入りしていたのですが、40代になった頃、教授から大学に戻ってくることを勧められ、大学を仕事のメインにおくことにしました。

当初は計算センターの教員として、研究開発の担当でした。研究のみでもいいという話もあったのですが、実際に大学の教員とあってはそうも行きません。講義や卒論指導など、学生とも多くかかわりました。応援団出身という縁で、法政の応援団顧問も務めました。六大学の各校が輪番で引き受ける「六大学応援団連盟」の理事長を務めた事もあります。

その後、大学で新たな学部を立ち上げる事になり、工学部に移籍し、工学部長などを務めました。その後常務理事として工学系学部の再編成に関与して、「デザイン工学部・システムデザイン学科」所属となりました。したがって今は土木ベースというより、問題解決のための理論構築、コンピュータでいう計算ソフトウェアのアルゴリズム構築が主体です。

（現在は各大学が共同利用する研究機構の役員を務めているので、大学は大学院の客員教授ということになっています）

▲「武田さんとともに」右から武田さん・鈴木会長・豊島さん・編集担当の田中

英語との〝格闘〟?!

――研究室の本棚は英語の本がずらり並んでいます。自称「勉強しなかった」武田さんですが、英語を使うようになったきっかけとは何でしょうか。

武田　本格的に英語を使うようになったのは大学院に進学してからです。大学院では講義テキストや論文は、英語やドイツ語の資料がほとんどで、「読む」ための努力が必要でした。大学院を修了してから国際会議等に参加する機会も多くなり、その頃は発表の内容を「聞く」必要がありました。しかし、実際に外国人と仕事や研究開発を行うようになり、最も大切なことは自分の意志を「伝える」ことであり、英語力は二の次だと思います。コンピュータもそうだと思いますが、英語は幅広く渡り合うための「ツール」なのだと思います。ただしゃべれる（使う）だけでは意味がない。英語そのものよりも、コミュニケーションのためには自分の考えがあることが第一。まず日本の人は日本の事をもっとよく知るべきと感じています。

＊＊　＊＊　＊＊

最後に武田さんに、豊島生の後輩にあたる若い読者向けにメッセージをいただきました。

思った時がやる時。
明るく楽しく元気よく。
やって来なかったことがマイナス、ということではない。
多くの友人と楽しく交わること。そして果敢にアタックすることですね！

学外にも、同期生にも人脈のたいへん広い武田さん、いくつかのターニングポイントでの果敢なアタックが、今の武田さんの原点とだったそうです。一層の活躍をお祈りします。

取材：豊島宏之・鈴木優子
文・構成：田中大祐、赤坂保明

同期会 OB会 OG会 だより

千川会（高女8回、高校1回）

平成20年11月13日
山高ミヨ子

第5回の千川会は、平成20年11月13日、午後12時30分、駒込東口の「磯太郎」で集いを開きました。

小春日和の暖かな気持ちのよい好天に恵まれ12名の方々がご出席下さいました。

和やかな表情でビールで乾杯。再会の感激と共に、ご欠席なさった方々に想いを馳せて、第十時代の女学生生活に話が移って参りました。

おしゃべりに花が咲き話題は尽きないのですが、二次会の予定もありお開きということになりました。

最後に来年は横浜に会場を移したら如何？と提案されました。早速、横浜在住の方が引き受けて下さることになり、一件落着。

10月第4週と決定致しました。

今回も渡辺（茂木）輝子さんが、写真を担当して下さいましてお世話様でした。良い記念に感謝しております。

次回は、横浜で大勢の方々とお会い出来ますよう、今から楽しみにしております。

▲千川会の様子

千早会Ⅱ（高女9回、高校2回）

平成21年2月4日
池袋ホテルメトロポリタンにて

第5回の千早会Ⅱは、お元気な宇高先生・花崎先生をお迎えして、出席者は全員で70名。賑やかな集いとなりました。

今回の会で会場に電子ピアノを運び込み、演奏してくださったのは尾崎さと子さん。私たちの同期生だった故尾崎（坂井）千代子さんの忘れ形見で、豊島高校の30回生です。会場には美しい音色がずっと流れておりました。

心地よいBGMの中で話が弾むうち、橋本（西江）敬子さんの紙切りの余興がありました。巧みに鋏を繰って出来上がったのは見事な「春」の文字、ちょうどこの日は立春でした。そして、懐かしい歌や童謡などを、歌は宮永（清水）美智子さんのリードで、ピアノ伴奏は志村道子さんにお願いして、皆で歌い、会場には素敵な歌声が流れ、皆女学生に戻ったようでした。そして、和やかな楽しい時間はあっという間に過ぎました。

喜寿という年齢になっても70名も集まることができる私達は本当に幸せです。これからも健康を第一に心がけて、皆様また元気にお会いしましょう。

来年は2月3日（水）同所で第6回を開きます（年末に出欠葉書を発送）。大勢の方々のご出席を楽しみにしております。

高校10回

平成20年10月8日
東武百貨店バンケットホール
佐藤（矢部）京子

「卒業してから50年」と銘打ったプレートをつけての入場でした。77名の10回生、遠くフランスから里帰りした人、香港から駆けつけた友もありました。

中でも卒業以来初めての方たちと興奮以外の何ものでもないシーンがあちこちに見られました。瞬間、どなた？と名札に目を移すのも失礼と、老いの頭をフル稼働させて切り出すドキドキ感。それも束の間、ああ2年の時同じ級だったとか、授業中に一緒に内職したっけ！など思い出は自然に湧き出てきます。面白いと思ったのは声と話し方でした。不思議に変わらないものですね。楽しくうれしくあっという間の3時間でしたが「思い切って出て来てよかった!!」こんなうれしいセリフも聞かれ、幹事一同後で喜び合った事です。大波小波をくぐり抜け、古稀を迎えた10回生。この重みをしっかり背負い、笑顔と健康を一番の売りに再会を約してお別れしました。

在学中は怖かった数学の松原先生、好々爺で優しいお目で笑っていらっしゃいました。物理の田辺先生は「虹の板」なる虹発生実験板を何十枚もリュックや手提げに入れて来られ、希望者に下さったのです。我々にとって先生は永遠に先生で、漬物石の重しでもあるのでしょうか。

最後にお2人の先生方とご参加の皆さまに改めて感謝とお礼を申し上げます。

高校3回「サルトリ会」喜寿の集い

皆様にはいかがお過ごしでしょうか。サルトリ会の面々も、今年・来年で喜寿を迎え、是非とも集いたいという声がありました。

おくればせながら、福田（那珂太郎）先生・森澄夫先生の芸術院会員就任のお祝いの会も。両先生はじめ、銀林重信先生・花崎（一野）幸子先生・樋口正三先生・福田（西矢）富子先生・松原久三先生もお越しくださる予定です。皆様ふるってご出席いただければと心よりお待ち申し上げます。

世話人／近藤（波多野）幸子・幸田（臼田）弘子

日時　5月28日（木）午後2時から5時
会場　ホテルメトロポリタン エドモント・2階（飯田橋）
会費　5,000円
問合せ　幸田弘子
TEL 03-3337-5555　FAX 03-3337-5588

高校12回

平成20年10月25日
於 ニュートーキョー桃香樓(有楽町)

卒業30年記念に第1回同期会を開催し、以来3年毎の開催で今回は第7回になりました。出席者は53名、ひたすらおしゃべりの和やかな2時間半でした。森澄夫先生(平成21年2月満90歳)は車椅子でご参加くださり、松原久三先生はご自身の小学校のクラス会と重なって、同期会終了まぎわにかけつけてくださいました。

5組の増村紀一郎さん(東京芸術大学教授)が平成20年、漆芸で重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されました。同期会当日、芸大美術館で退任記念展(平成21年3月退任予定)開催中で、残念ながら直接お祝いを申し上げることはできませんでしたが、5組の有志の方は同期会終了後、会場へかけつけたそうです。

▲高校12回　森澄夫先生を囲んで

会の半ばには2組の柳沢忠男さんが民謡「刈干切唄」を唄って、見事なノドを披露してくださいました。

今回は早い時期に参加者全員に、クラス毎の集合写真やスナップ写真をお送りすることができました。次回も元気で大勢の方々にお会いできますことを楽しみにしています。

▲森先生(右)と松原先生

高校14回

平成20年10月12日
於 目黒雅叙園
落合光太郎

「豊島十四会」同期会はオリンピックイヤーを開催年に、さらに前回からは中間の年にもという要望に応え今回の北京オリンピックイヤー開催で6回目となりました。

秋の観光シーズン、しかも3連休にもかかわらず、恩師の先生方4名、会員60名の計64名が参加しました。豪華な庭園と内装に囲まれた素晴らしい会場で大いに盛り上がりました。ただ一つだけ難をいえば、建物周辺に急坂が多く、徒歩での行き帰りが大変だった様でしたが…

会は永遠の司会コンビ山岸・福井両司会者の進行で始まり、クラス別に設けたテーブルも懐かしい先生方、旧友を求めていつしか元の形も判らない程の賑やかさに。特に思い出のフォークダンスでは、全員手をつなぎ会場じゅうを踊り回り、まさに40余年前の母校の校庭にタイムスリップした思いでした。

一次会で高ぶった気持ちをそのままに並びに用意した二次会にはほとんどの方が参加、尽きぬ思い出話に時を忘れ楽しみました。その後はそれぞれのグループで三次・四次会へと繰り出したようです。次回は2年後に

高校47回

於 平成21年1月24日(土)
池袋・パセラリゾーツ

昭和51年度生まれが中心の高校47回生は、平成7年の卒業以来14年目にして初の同期会を催しました。1組から7組まで約80名が参加し、榎本洋一先生、川口久美子先生、佐藤恒子先生、川島明先生にもご参加いただきました。

学校のチャイム音で開会。幹事が作成した学生時代を振り返る映像が流れ、みんな気持ちは学生時代へタイムスリップ。映像の後、先生方が一人ずつ映像とスモークとともに入場し、一気に会場は盛り上がりました。

歓談時間には、近況など話し

(10ページ上へ続く)

おめでとうコーナー

同窓生が受賞章・入選したお知らせを、順不同でご紹介します。皆様おめでとうございます。一層の活躍をお祈りいたします。

▼**香川京子さん**(高女9回)
主に映画女優として活躍。第26回川喜多賞を受賞(日本映画発展や映画を通じた国際交流の功績を称える賞)。約60年の間に120本の映画に出演しました。

▼**大矢紀さん**(高校6回)
日本画家として活躍。作品「浄」にて、第93回院展(日本美術院主催)で、内閣総理大臣賞を受賞しました。

▼**増村喜一郎さん**(高校12回)
漆芸家として活躍。髹漆(きゅうしつ)とよばれる伝統的な技法にて、平成20年に重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されました。

註・他にご存知の方がいらっしゃいましたら柏豊会幹事へお知らせください(連絡先11ページ)(掲載にあたり、柏豊会でご本人の了承を得ております)

高校22回(昭和45年卒)同期会

2年に1回の同期会・今年は、ゲストに
竹田裕美子 with friends のライブを予定しています。
竹田さんは3年時5組の同期生で、フォークグループ「五つの赤い風船」で活躍中です。

■日時 6月28日(日) 16時30分より
■場所 池袋西口「ホテルメトロポリタン」にて
■会費 11,000円
■問合せ 春田啓郎(5組)

出欠確認は、5月上旬までに、改めてハガキで連絡します。

049-234-8205(自宅) kharuta3@aol.com(メール)

▲華やかな演出が彩りを添えました～高校47回

ながら、飲んで食べて笑って、楽しい時間を過ごしました。

その後じゃんけん大会を経て、いよいよ会も終盤へ。3年当時の担任の先生へ、クラス代表者から花束を贈呈し、エンドロールが流れる中、大盛況の内にお開きになりました。参加者全員にお土産として、会の最中に流した映像を集めたDVDをお持ち帰りいただきました。

世代的に小さな子供をもつ人も多く、参加したくてもできない人も多かったので、何年後かにまた同期会を開催する予定です。

サッカー部OB会 再起動

Foot Ball

平成20年10月25日
OB会役員一同

平成7年のOB会を最後に活動を休止していたサッカー部OB会の活動を、一部OBと現サッカー部顧問江口先生のご協力により再開する運びとなりました。昨年6月29日のOB会当日は豪雨でプレーこそ出来ませんでしたが、24名が集まり総会を行いました。総会では新役員を選出、今後のOB会の活動方針、計画、希望等を話し合いました。年会費・寄付を頂き、OB会の目的の一つである現役サッカー部へ経済的支援をすることが出来ました。

▼豊島高校グランドの土のにおい、思い出せますか。またみんなでボールを蹴って気持ちのよい汗をかきましょう。サッカー部OB会へぜひご参加ください。

（高校25回　田中義彦）

「ぜひ豊島高校のグラウンドからOB会復活を」と多くの声をうけ、10月25日、2回目のOB会を行いました。前日の大雨で天候面で不安を感じていましたが、当日は曇りでなんとか開催にこぎつけました。年齢も20代から50代まで、また家族連れも含め多数のOBが集まりました。大会を控えた現役サッカー部員に、OB会の松井肇会長（高校25回）から激励の言葉を贈り、OB会として現役サッカー部を支援していく事を約束しました。記念撮影の後、参加OB全員でサッカーを楽しみました。思い出の詰ったグラウンドで昔を思い出し、各々の体力に合わせ楽しくプレーしました。世代は違えども、サッカーを愛する気持ちは共通なのです！

▼約20年ぶりに豊島のグラウンドでの同期との再会。見た目太ったり、薄くなったりしても、言葉を交わせば縦横無尽に走り回ったあの頃の熱い思いが蘇りました　（高校35回　高橋孝英）

1）現役をサポートします　2）再会記念　3）4）思い出のグラウンドでプレー

▼高校のグラウンドで十何年振りにサッカーをして、当時の記憶が甦りました、辛い思い出も（笑）。今回誘えた同期は1人でしたが、次は全員でグラウンドに立てればと思います。楽しかったです　（高校45回　藤　修）

▼先輩方とサッカーができて楽しかったです

（高校58回　牧野浩二）

今後は会員相互の親睦を深めること、現役サッカー部への経済的・精神的・技術的支援を目的として、少なくとも年1回のOB会、総会、懇親会を開催していきたいと計画しています。

一方、長く活動休止した影響で、各OBの現在の所在、休止中に卒業したOBの詳細等を判明させるのに非常に苦労しています。特に平成7年から同10年卒業の方に関しては、サッカー部OBの名前も把握できていない状態です。この記事を読む卒業生の皆様へお願いなのですが、平成7年から同10年のサッカー部だった方の情報をいただけませんでしょうか。「この人がサッカー部だった」、「この人がサッカー部のマネージャーだった」等の情報を待っています。サッカー部OB会連絡アドレス toshima_soccer_club@yahoo.co.jp までご一報ください。

サッカー部OB会
今年も開催します!!

［仮］10月25日（日）・豊島高校グラウンドにて

詳しくは、サッカー部OB会連絡用アドレスにお問合せください！

toshima_soccer_club@yahoo.co.jp

柏豊会一般会計　平成20年度決算・平成21年度予算

（単位：円）

貸借対照表（B/S）

平成21年3月31日現在

資産の部	
現金	956
郵便為替	8,598
普通預金	3,182,868
定期預金	9,595,679
70周年記念積立金	1,250,000
流動資産合計	14,038,101
定期預金（基本財産）	1,000,000
資産合計	15,038,101
負債の部	
新卒入会前受金	2,771,370
資本の部	
基本財産	1,000,000
前期繰越金	12,524,011
当期剰余金	▲257,280
次期繰越金	12,266,731

損益計算書（P/L）

決算：自平成20年4月1日　至平成21年3月31日
予算：自平成21年4月1日　至平成22年3月31日

収入の部	20年度決算額	21年度予算額	摘　要
入会金収入	2,819,370	2,770,000	20年＝235名 21年＝231名
通信協力費収入	1,428,000	1,500,000	
寄付（通信協力費）	0		
柏豊会名簿	0		
親睦会収入	87,400	100,000	
親睦会雑収入	2,000		
雑収入	2,801		
受取利息	28,698	15,000	
繰越金取崩予定		1,045,000	
収入の部計	4,368,269	5,430,000	

支出の部	20年度決算額	21年度予算額	摘　要
運営費	411,709	450,000	
事務消耗品費	5,871	10,000	
慶弔費	122,186	0	＊下段参照
親睦会費	715,232	800,000	
学校寄付金	0	0	
卒業記念品費	306,923	400,000	
会報発行費	2,763,128	2,900,000	
名簿作成費	500	20,000	
学校援助金	300,000	300,000	
70周年記念準備金	※資産に留保される	250,000	
予備費	0	300,000	＊21年度より、慶弔費は、予備費に含むものとする。
支出の部計	4,625,549	5,430,000	
当期剰余金	▲257,280		
前期繰越金	12,524,011		
次期繰越金	12,266,731		

上記の通り報告いたします。
平成21年4月12日　会計　大野　哲
会計　田中　直樹

監査の結果、適正であることを認めます。
平成21年4月12日　会計監査　石井　公恵
会計監査　飯島　慶子

代議員会の報告

4月12日（日）午後・豊島高校会議室で開催。出席17名。母校から鶴田副校長出席。議長に木村副会長選出の上、議事に入る。以下審議・報告を行いました。

▼平成20年度事業報告

代議員会、幹事会（9回）開催。親睦会、会報発行等事業実施。母校の学校運営連絡協議会に幹事代表が参加し、学期毎に会合出席。新卒生に卒業記念品贈呈。（財）豊島会に幹事代表が参加。9月の母校文化祭時、日大病院・瀬在明医師を迎えて、「ハートtoハート」公開講演会を開催しました。

▼平成20年度会計・監査報告

詳細上表のとおりです。

▼平成21年度事業計画

幹事会（月1回程度）・親睦会開催。母校部活動支援の為学校援助金実施。柏豊会70周年（平成23年度）記念事業の企画推進。同窓会ホームページ再開に向け調査検討。（財）豊島会に幹事代表が参加し、公益法人新法制対応に向け準備、及び公開講座の企画開催を行います。

▼平成21年度予算

詳細上表のとおりです。

▼親睦会（6月7日）

アトラクション・ゲームの充実と併せ、ピアノ演奏や現役生による吹奏楽なども企画中です。同期会や部活動のOB・OGの顔合わせにも活用する等、多数のご参加をお願いします。

▼役員異動（4月12日付）

会計監査：新たに岡野絃基さん（高校16回）就任。飯島慶子さんは引続き務めます。

▼同窓会70周年記念行事

今から2年後に、同窓会は創立70周年を迎えます。柏豊会では、2011年（平成23年）秋頃に、記念祝賀会を催す計画を進めています。今後とも母校との絆を深め、現役生を熱くサポートしていくことを目指し、アトラクションとして現役生の出演を計画しています。活躍盛んな部活動の一端をご覧いただく機会にしたいと思いますのでご期待ください。なお、会場や企画については、現在、幹事会にて打ち合せを進めています。情報をお持ちの方・参加を希望の方は、柏豊会へぜひご一報ください。

▼柏豊会の連絡先について

柏豊会及び各幹事への連絡・お問合せは、幹事一覧下の連絡先へお願いします。折り返し担当幹事から連絡しますが、返答まで少々時間がかかりました際はどうぞご容赦ください。なお、掲載内容は本人同意のもと会員との連絡用に掲載しているものです。会員外には開示しない等、本紙の取扱には充分にご注意くださいますようお願いします。

柏豊会　幹事一覧

（平成21年4月現在）

会　長 (高14) 鈴木優子	(高7) 梅木栄子	(高47) 赤坂保明
副会長 (高10) 木村太一	(高8) 倉島須美子	(高52) 依田賢司
(高16) 小川寛美	(高9) 篠崎　繁	(高54) 中條恒雄
会　計 (高17) 大野　哲	(高10) 大野弘隆	(高55) 秋山花子
(高56) 田中直樹	(高11) 福永正子	(高55) 花前裕子
会計監査 (高16) 岡野絃基	(高12) 辰口百合子	(高56) 奥山有理亜
(高47) 飯島慶子	(高13) 小泉恭昭	(高56) 新井絵理奈
幹　事 (女1) 多賀能美栄子	(高14) 豊島宏之	(高57) 柳田香織
(女2) 小山五月	(高15) 渡辺尚夫	(高58) 多田祥子
(女5) 石井昭代	(高16) 堀井昭夫	(高58) 福島誠貴
(女7) 津久井ナナ子	(高17) 綿貫昌子	(高58) 日野　梢
(女8) 内田圭子	(高18) 大平正子	(高59) 雨宮　薫
(高1) 山高ミヨ子	(高19) 米倉義明	(高60) 斉藤裕貴
(高2) 尾崎三重	(高19) 前沢史明	(高60) 川名美知子
(高3) 依田セツ子	(高37) 大槻文彦	(高60) 山形理恵子
(高5) 恩田　豊	(高41) 清水光久	(高61) 奥山裕美
(高5) 犬丸瑠璃子	(高42) 田中大祐	(高61) 古川千鶴

柏豊会・幹事への連絡、問い合わせは以下へお願いします
▼電話 090-4228-8758　▼FAX 03-3972-4037（担当・鈴木）
▼メールアドレス　hakuhokai@mbg.nifty.com
▼郵便　〒171-0044　豊島区千早4-9-21　豊島高校内「柏豊会」宛

生きとし・刻（とき）

日比野すみ（高校２回）

数十年来私が住んでいる大泉は今も農家が点在し桜並木通りも楽しめる良い所で、ゆったりと行き交う人々の中で過ごしていましたが、かねてより憧れていた渡仏へのチャンスが与えられ、私は日本を後にしました。

フランスのオルリー空港に降り立った時は夕暮れで遠く母国を離れたことを実感しました。空港から巴里市内に入るにつれ徐々に変化が感じられ目に飛び込んで来た景観の美しさは自然と調和のとれた立体感のある、まさに人によって形づくられた人工美といいましょうか、その美しさに唯々私は圧倒され言葉もなく引き込まれました。

過ぎ去る日常の刻の中から、常に何かを得る事を望んでいた私は、自分探しに動き始め、特に決めてはいなかったものの結果的にフランスで数年を過ごす事となりました。当時、私は巴里郊外に住んでいてまるで大泉から銀座に行くような感覚で郊外電車で市内を往復していました。

放射線に延びた道には堅牢な建物やアパルトマンが夫々の中から個を主張しつつも、調和を生み出し醸し出しているものは紛れもなく巴里の風景であり、息づいている昇華された〝美〟が私を限りなく魅了しました。

▲「観自在」

我が国を訪れる外国人がしばしば日本の素晴らしさを語り、文化を愛して日本に住み続けるように、私も外国人であることを忘れてフランスでの生活を続けていました。

私と同様に何かを見極めようと巴里の地を踏んだ日本の若い人達を市内で数多く見かけましたが、あれから数十年が経ち、彼らは何かを得られて前に進むことが出来たのでしょうか…ふと思い至る時があります。

私の住まいの近くには広大な『セナールの森』が在り、その森に潜む自然の神秘的な空間に佇み畏怖にも似た感情に圧倒されながらも、自分が追い求めた何かが得られそうに感じ始めていました。学生の頃から事物を写し取る事に専念し、違う方向に進んでしまっていた事に漠然と気づき、数年を経て漸く自然が答えを教えてくれました。程なくして私は帰国しました。

以来数十年、世の中は目まぐるしく変貌を遂げ失われたものも多々ありますが、私達は自然の恵みを甘受し生きています。宇宙が与えてくれる恩恵や喜びを常に身近に感じ、私はテーマを『宇宙における個の存在』として描くことを心がけています。

―『新美術新聞』作品論評より―

人は宇宙から水や空気諸々の恵みを受けて生かされている存在だと捉えている。宇宙の中での個を見つめ、その自然観照を、永劫の主題として且つ、自身の営為の総体として描き続けているのが、「観自在」。

略歴：女子美術大学芸術学部洋画科卒
新作家美術協会委員・女流画家協会会員
日本美術家連盟会員

編集後記

▼わが47回生が卒業以来14年ぶりに初の同期会を開催。私が参加人数の多い学年全体の同期会の開催に二の足を踏んで10年以上何もせず、開催してもクラス会に留めていたところ、全く違うところで話が進んでいたのだ。しかも、今回の幹事のS君はすごい。会場内の演出もさることながら（詳しくは9ページ）、なんと記念DVDのお土産つき。とても私には真似出来ないハイクオリティな同期会に感動！そして、改めて彼の行動力に脱帽。

▼この話には裏話がある。迂闊にもこの同期会計画を知らず、同時期にクラス会を企画していたのだ。結局件の同期会に統合させてもらった訳だが、その事をS先生にお話ししたら「みんなの想いが豊島に向かっていたのね」とのお言葉に妙に納得。

▼「豊島文庫の中から」は、豊島高校で以前国語科担当だった粟屋（近藤）不二子先生の想いをようやくカタチにできたもの。先生が転勤で豊島を離れる際、「ぜひ、同窓会報で豊島文庫の紹介を」とお願いされていたのだ。取材を進めるうち、様々な方の想いがこの豊島文庫を作り上げたことを知り、その想いをお伝えできることを切望。（あ）

▼その図書館には、生徒会機関紙「田園」の過去の号も所蔵している。内容は座談会あり、クラス・部活紹介や文芸の投稿も。読み進めると今や著名人になった方も。これらも機会を見てひも解いてみたいと思う。

▼今回は同期会開催が多く、同期会だよりや開催予告コーナーは予想を上回る盛況でした。幹事さんの熱心な声掛けやリポートに感謝！もうすぐ同窓会は70周年。これからも賑やかな再会の輪が咲き続けますように（た）

【注意】本誌掲載情報（記事・図表・写真等含む）は柏豊会会員のみを対象とした当会報に限る条件で、情報提供者から許諾を得て掲載しています。このため、本誌掲載情報の二次利用及び誌面の複製転載等は一切認められませんのでご注意ください。

柏豊　54号
2009年（平成21年）5月10日発行
© HAKUHOKAI 2009 ／本誌は非売品です
【注意】掲載情報の二次利用及び本誌の転載・複製等を厳禁します
制作・著作　柏豊会
（第十高女・豊島高校同窓会）
会長 鈴木優子
〒171-0044　東京都豊島区千早4-9-21
豊島高校内
TEL 03-3958-0121/FAX 03-3959-8590
印刷　株式会社つかさプランニング
TEL 03-3292-1641
《会報編集委員》
多賀能美栄子　尾崎　三重
依田　セツ子　恩田　豊
犬丸　瑠璃子　木村　太一
小泉　恭昭　小川　寛美
綿貫　昌子　大平　正子
前沢　史明　田中　大祐
赤坂　保明　飯島　慶子